

注目企画

1

樋口万太郎先生 独占インタビュー！ ～タブレットの活用が学びにもたらす効果とは？～



樋口 万太郎

1983年大阪府生まれ。大阪府公立小学校、大阪教育大学附属池田小学校を経て、2016年より京都教育大学附属桃山小学校教諭。『GIGAスクール構想で変える！1人1台端末時代の授業づくり』（明治図書出版）など著書多数。

GIGAスクール構想の推進によって、一人一台ICT端末の学校への配布がほとんどの自治体で完了しています。そんな中、タブレットを使ってみただけどいまいち効果を感じられない、うまく活用できているかわからない…という悩みをお持ちの先生もいらっしゃるかもしれません。

そこで、授業でタブレットを積極的に活用されている、京都教育大学附属桃山小学校の樋口万太郎先生に、タブレットの活用が子どもたちの学びにもたらす効果についてお話を伺いました！

また、p.11からご紹介するアンケートの中で多くの先生方から寄せられた「こんなときどうすれば？」というお悩みに対しても、樋口先生よりアドバイスをいただいております。

タブレットの活用に興味を持ったきっかけ

—— 樋口先生はタブレットの活用に関する本を複数執筆されていていらっしゃると思うのですが、タブレットの活用に関心を持たれたきっかけは何だったのでしょうか？

10年前、当時勤務していた学校で教員に一人一台配られたiPadに、大型モニターに画面をミラーリングできる機能が付きまして。例えば子どもたちの考えをクラスに共有したいとき、それまではノートなどを映す実物投影機が必要だったのですが、ミラーリング機能があることで、iPadだけで考えの共有ができました。このことに大きな可能性を感じたのが、タブレットの活用に関心を持ったきっかけです。

—— タブレットの使用に抵抗感はなかったですか？

正直なところ、抵抗感はゼロではなかったです。当時の私は、WordやExcelを自在に使いこなせたわけではないので、操作面の不安もありました。しかしそれ以上に、新しい端末を使ってみることへのワクワク感や興味関心のほうが大きかったように思います。

—— タブレットを授業に取り入れていく過程で、感じた課題などがありますか？

最初はなかなかタブレットが授業になじまず、かえって子どもたちの学習の妨げになってしまっているのではないかと感じるがありました。それでも、これまで試行錯誤を繰り返しつつ実践を続けてきて、タブレットの使用に

はデメリットを上回るメリットがあると思っています。タブレットを授業に取り入れられるようになるにはどうしても時間がかかります。4月から導入した学校ではうまく活用できずに悩んでいる先生も多いかと思いますが、少し踏ん張って、時間をかけて改善に取り組んでいただきたいなと思います。

—— 「最初はなかなかタブレットが授業になじまなかった」とのことですが、その原因について、樋口先生ご自身はどう考えられていますか？

今思うと、なんでもデジタルに移行しようとしすぎてしまったかなと思います。4年生の担任をしていたとき、コンパスを使用する問題で、タブレットにコンパスの針を刺してしまった子どもがいたんです。どうしてそんなことをしたのか聞いてみると、タブレットよりも紙の方が作図しやすいからということでした。それを聞いて、図形を手で触ってみたい、作図をしたりなど、アナログの方が適している活動もあるんだということに気づかされました。無理にすべてをデジタルで行おうとするのではなく、アナログとデジタルの共存を意識していかなければいけないのかなと思います。

—— 具体的に、どのような活動が紙で取り組むのに適していると思いますか？

漢字の書き取りについては紙が適していると感じることがありますね。また、低学年のうちは算数の学習で図形を重ねてみたり折ってみたり回転させたりして、手を動かす実感とともに学んでいくことも大切だと思います。

タブレット活用のメリットは？

—— タブレットを使用することのメリットは何だと思いますか？

「比較しやすい」のがよい点だと思います。例えば前の授業内容を振り返りたいとき、タブレットであれば、ノートと違って一つの画面の中で過去と今の授業内容を見ることができるんですね。それまでの学習内容と比較しながら学ぶというのは非常に大切なことなので、それが容易にできるのはよい点だと思います。

また、学習支援アプリによっては友達とお互いの考えを共有できる機能もあります。クラス全員の考えを一度に知ることのできるのも、これまで以上に、多様な考え方を「比較」しながら学ぶことができます。自分とは違う考え方にふれることで、新しい考え方が生まれることもありますよね。そうした経験が「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」に繋がって

いくのではないかと考えています。

クラス全員分の考えを一度に知ること可能▶



—— 子どもの多様な意見が可視化されることで、思わぬ意見が飛び出すなど、授業の進捗が予想しづらくなってしまう面もあるかと思いますが、樋口先生は何か工夫をされていますか？

こんなときどうすれば…？①

タブレットを使用することで、「書く力」が低下してしまうのでは…と不安です。



私自身も、漢字の書き取りには紙が適していると感じますが、紙の上に文字を書くことだけでなく、文章を推敲してより良いものにしていく過程も含めて「書く力」ととらえていただければ、むしろ「書く力」は向上するのではないかと考えています。

例えば作文を紙に書く場合、先生や友達から指摘をもらって修正しようとする、一度すべて書き直す必要がありますよね。しかし、タブレットで書いていれば、指摘された箇所だけ変更すればよいので何度も修正を加えることができます。また、自分で推敲するときにも、文章を付け加えたり順番を入れ替えたり、不

子どもから予想と異なる意見が出たときは、「そっちに行っただか…」と正直に口に出してしまうこともあります（笑）。

子どもたちの意見に沿って話をした後、「実は先生はこういう意見だったんだ」と一つの視点として提示することが多いです。それに対して、『違うよ』『私はそう思わない』と言ってもいいからね」と子どもたちには伝えています。国語の学習で、「先生の考えには納得できない」と言っている子が多くいました（笑）。そこから考えが深まっていくこともありました。

完全に本時の目標とずれてしまっている意見が出てくる場合もあるので、そうしたときは「それはちょっと違うよ」とはっきり指摘することもあると思います。そのうえで「こういう視点で考えてみて」と道筋を示してあげると、子どもももう一度戻って考えてくれますね。頭ごなしに否定したり、教師にとって都合の良い意見だけを取り上げたりしないように気を付けています。

—— 先生の校務にとってもメリットはあるのでしょうか？

紙の資料やプリントの印刷などにかかっていた授業準備の時間を、大幅に短縮できるようになりました。その分、自分で授業の振り返りをする時間を長く取れるようになったと思います。デジタルで子どもたちの考えを可視化・収集しやすくなった結果、授業の振り返りの質も向上しています。

また授業内でも、これまでプリントを配るのに使っていた3～5分を、例えば話し合いの時間に充てることができるようになったので、子どもたちの学びのスピードが上がっているのを実感しています。

要だと思った部分を削ったりすることが簡単にできます。修正に時間がかからない分、推敲の時間を多く設けてあげること、文章の質を高めていくことができるのではないのでしょうか。

また、タブレットを使用して「比較」しながら学ぶことで、子どもたちのノートの精度も上がっているように感じています。それまでの学習内容や友達の考えなどさまざまな情報をすぐに取得できるので、自分が学習内容を理解するために本当に必要な情報は何か、厳選してまとめることができるようになったのではないかと思います。



タブレット使用時の指導について

—— インターネットの使い方やタブレットの使用時間などについて、どう指導すればよいか悩まれている先生もいらっしゃると思います。樋口先生が実際に行っている指導や、クラスで決めているルールなどがあれば教えてくださいませんか？

タブレットが導入されたことで、デジタルタトゥー(※)や不正ログインなど、子どもたちの間の「ごめんね」「いいよ」だけでは解決できない問題が発生するリスクが増えています。なので、「デジタルタトゥーという考え方があって、一度インターネットにアップした画像は誰に保存されるかわからないから気をつけようね」「不正ログインはこういう条例で禁止されているんだよ」ということは1年生のうちから繰り返し伝えるようにしています。若手の先生であれば、思春期の頃から携帯電話をお持ちだった方も多いと思うので、ご自身が子どものころに悩まれたことを話してあげるのも効果的かもしれませんね。

ただ、一度起きてしまうと取り返しのつかない問題以外は、最初からルールを作るよりも、トラブルが発生するたびに子どもたちと話し合いをしてルールを作っていく方が効果的だと思っています。教師がルールを作って「だめだよ」というのは簡単ですが、ただ禁止されるだけだと、結局陰でこっそりやってしまう子どももいますよね。難しいことですが、きちんと話し合い、子どもが「なぜだめなのか」を納得した状態でルールを作っていくことを心掛けています。

(※) 一度ウェブ上に記録されたデータは容易に消去することができず、永続的に残り続けるさまを、入れ墨(タトゥー)になぞらえた語。

タブレット活用の「未来」と「可能性」

—— GIGAスクール構想でタブレットの利用が広がっていますが、樋口先生の理想の授業はどのようなものでしょうか？

授業の中で、タブレットを使用する子もいればノートに書く子もいるというように、紙でもデジタル端末でも、子どもたちが自分に適した学習方法を選択できる環境が理想だと思います。大人でも、場面に合わせてツールを使い分けの人がほとんどだと思うので、子どもたちにも、自分にとって最適な学習方法を見つける力をつけてほしいですね。

特に、タブレットを導入しはじめた時期は何にでもタブレットを使いたがる子どもが多いですが、実際に使ってみて「これは紙の方が良い」「これはデジタルの方が使いやすい」という経験を積み重ねることで、自分に合った学び方を身に着けていくのかなと思います。なので、「この授業はタブレットを使いましょう」などと限定しすぎず、子どもたちが選択できる余地を設けてあげることが大切だと考えています。

—— 最後に、樋口先生がタブレットの活用において大切にされていること、また、同じくタブレットの活用に取り組む先生方に対して、何かメッセージがあればぜひお願いします。

タブレットの導入自体で、授業が劇的に変わるわけではないと思います。「タブレットをどう使うか」ということに意識が向いてしまう先生も多いと思いますが、タブレットはあくまで手段ですので、「タブレットを使用してどのような授業を実現したいのか」を考えていただくことが大切だと考えています。私の場合は「子どもたちが学習ツールを自分で選択できる授業」ですね。そうした、先生方それぞれの教育観を確立していただければ、タブレットをより自在に、効果的に活用していただくことが可能になるのではないかと思います。

こんなときどうすれば…？②

子どもたちの
タブレット操作やタイピングに
時間がかかってしまい、
思うように授業が進まないことに
焦ってしまいます…。



私は、教科書で設定されている単元ごとの目標時間の7～8割程度の時間で授業計画を作成するようにしています。そうすることで余剰の時間がうまれるので、

授業の進行が多少遅れてしまったときも少し余裕を持つことができます。

また、「この子は昨日よりもタイピングが速くなったな」など、子どもの成長に目を向けてあげることも大切です。

最初のうちはどうしても時間がかかってしまいますが、子どもの成長は大人よりも早く、タブレットの操作にもタイピングにもすぐに慣れていきます。「ここで経験を積ませてあげれば、半年後、一年後にはずっと速くなる」という気持ちで見守ってあげられるとよいですね。